

# 世帯員別にみた集落営農に対する意識と課題

## 1. 調査のねらい

生産性の高い土地利用型農業と豊かな生活環境の実現をめざし、集落を基盤とした営農システム構築の方策を解明するため、世帯員別に農業経営及び集落農業の現状認識、問題意識、将来の営農意向に対する意識を分析する。

## 2. 調査方法

芳賀郡内の5集落において、平成10年9月、農家世帯員を対象にアンケート調査を実施した。なお、調査票の配布及び回収はJAはが野の協力を得て訪問により、また回収は郵送で行なった（配布戸数201戸、有効回答数129戸、回答率64.2%）。

## 3. 調査結果および考察

### (1) 自家の農業に対する問題意識

自己完結型農業の限界とともに水田の委託先の不安を感じている度合いは低い（表-1、①、②）、農業機械への過剰投資についての問題認識は高く、その度合いは世代が上になるほど、また男性は女性に比べて高い（表-1、③）。

### (2) 集落営農に対する意識

集落営農で各農家が発展できるという考えについては肯定的で、世代が上になるほど、また男性は女性に比べて強い（表-1、④）。また、集落で農業を維持しようとする意識は世代が上がるほど、また男性は女性より高く、若い世代ではむしろ否定的である（表-1、⑤）。「この集落でもやるべき」については肯定的ではあるが、共通していることは「わからない」という回答率が高いことである。とくに若年世代ではこの傾向が高く、集落営農に対する意識は希薄である（表-1、⑥）。集落営農にどのように関わるかについては、父は「畦畔管理」がおよそ3割、経営主の妻は「直売や加工」「花づくり等の景観整備」が3割以上、あとつぎ妻も景観整備は3割が参加すると回答しており、世代間または男女間で多様化している（図-1）。

### (3) 農家としての意識

生きがい農業については7～8割が「(やや) そう思う」と回答している（表-1、⑦）。離農への抵抗感など農家としてのこだわりは高く、世代が上になるほど、また男性は女性に比べて高い（表-1、⑧、⑨）。

### (4) 共同（機械利用等の）に対する意識

「わからない」が多いものの、およそ7割が共同による利益よりも機械や農地の利用について他から制約を受けない自由を重視していることがわかる。この意識は高齢世代で強い（表-1、⑩）。

### (5) 合意形成

半数以上が、集落のことを決めるのにすべての賛同が必要と回答をしており、男性では世代が上になるほど肯定的である（表-1、⑪）。女性や若い人の意見を尊重すべきは、全体として7割以上が肯定的で男性は世代が上になるほど肯定的である（表-1、⑫）。

## 4. 成果の要約

農業・農家に対する意識は世代間・男女間で異なる。集落営農に対してはコスト低減の視点から比較的肯定的な見方が多いが、農家としての存続意識、利益より自由つまり共同より私的を重視する意識が強く、個々の農家にとって共同のメリットを増幅させるような営農システムの構築が必要である。また、加工、直売、生きがい農業など集落営農に対する世帯員ごとの期待が異なることから集落営農を推進するうえでは、単なる水田営農の合理化のみではなく、地域の活性化を図るための総合的な取り組みが必要である。

（担当者 企画経営部 家中達広）

表-1 農業、集落営農等に対する意識

設 問	全 体	父	経営主	あとつぎ <sup>注1</sup>	母	経営主妻	あとつぎ妻
① もう個人では水田をやりきれない	-0.65 (11.4)		-0.61 (10.2)	-0.75 (17.3)		-0.64 (9.0)	
② 自分の家の水田を頼める相手がいない	-0.66 (19.0)	-0.28 (10.3)	-0.94 (20.0)	-0.61 (27.8)	-0.41 (17.6)	-0.59 (15.7)	
③ 機械に金をつぎ込みすぎている	0.30 (13.2)	0.71 (17.9)	0.33 (8.1)	0.19 (17.3)	0.33 (24.2)	0.43 (9.3)	-0.85 (20.0)
④ 集落営農で稲作、園芸、兼業農家それぞれが発展できる	0.53 (39.8)	0.92 (38.5)	0.84 (28.0)	0.44 (40.0)	0.26 (55.9)	0.32 (39.0)	0.11 (73.7)
⑤ 集落の農業はよそへ任せず自分たちで守るべき	0.34 (25.8)	0.92 (20.0)	0.58 (14.6)	-0.12 (32.0)	0.19 (43.8)	0.42 (25.0)	-0.37 (42.1)
⑥ ここの集落でもやるべき	0.45 (42.2)	0.50 (42.3)	0.65 (27.4)	0.42 (58.3)	0.47 (52.9)	0.30 (38.0)	0.17 (66.7)
⑦ 生きがいとして水管理や自家野菜作りはしたい	0.77 (10.8)	0.88 (3.8)	0.76 (10.2)		0.38 (11.8)	0.90 (13.1)	
⑧ 自分の代で農業をやめてしまふのには抵抗がある	0.63 (12.3)	1.15 (14.8)	0.75 (12.0)	0.53 (8.5)	0.88 (11.8)	0.40 (15.4)	0.16 (5.3)
⑨ 子どもには農業を継いでもらいたい	0.15 (18.1)	0.88 (7.7)	0.19 (11.7)	-0.51 (34.0)	0.65 (17.6)	0.22 (21.1)	-0.67 (11.1)
⑩ 利益少なくとも個人の方が煩わしくなくてよい	0.44 (29.1)	0.75 (29.2)	0.37 (23.8)	0.33 (30.4)	0.63 (34.4)	0.46 (25.9)	0.22 (55.6)
⑪ 集落のことを決めるにはすべての賛同が必要	0.65 (25.5)	0.75 (8.3)	0.54 (15.2)	0.59 (36.4)	0.70 (30.0)	0.73 (26.3)	0.72 (55.6)
⑫ 女性や若い人の意見を尊重すべき	1.10 (19.7)	1.54 (15.4)	1.22 (10.3)	0.94 (20.0)	0.91 (37.1)	1.12 (19.3)	0.63 (36.8)

注1) 家のあとつぎであって、必ずしも農業のあとつぎではない。

注2) 設問に対する選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「ややそう思わない」「そう思わない」「わからない」の5つ。

注3) 表中上段は評点(次式)、下段カッコ内は「わからない」の回答率(%)を示す。

評点 = (そう思う×2 + ややそう思う×1 + ややそう思わない×-1 + そう思わない×-2) / 回答数

注4) 「集落営農」については調査票中で説明している。

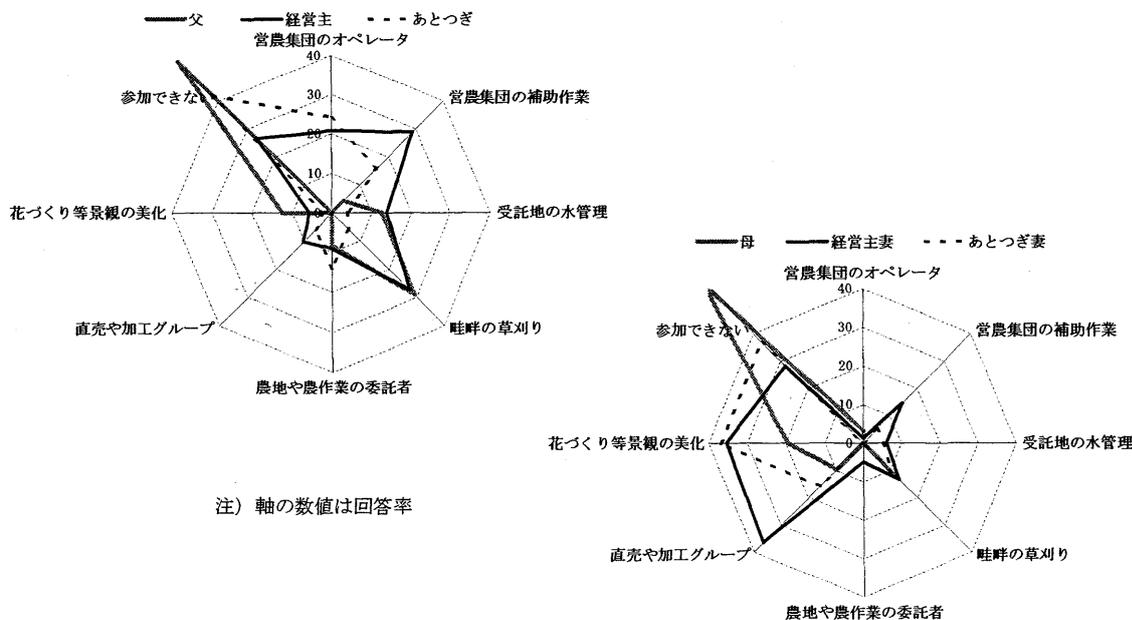


図-1 集落営農にどのように関わるかについての意向